暮らしの
健康
相談

今野　明 先生

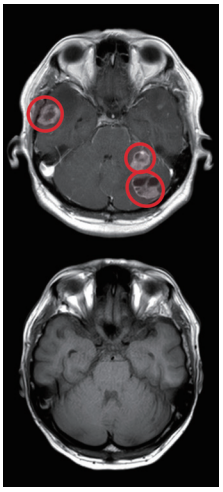
1955年生まれ。85年福島県立医科大学医学部卒業、旧第一外科入局。97年今野外科院院長、2011年から東日本大震災・原発事故で避難中。震災後、（公財）仁泉会梁川病院院長、23年8月から（同）北福島医療センター勤務。13年第20回ノバルティス地域医療賞受賞。医学博士。相馬郡医師会所属。

目を見張る放射線治療の進歩

皆さんは、放射線治療というとどのようなイメージをお持ちでしょうか。外科的手術の適応からはずれた最後の治療という印象をお持ちかも知れませんね。

現在は、乳がんに対する乳房温存手術後に放射線照射を追加したり、前立腺癌で手術を希望しない方が、積極的にこちらの方法を選択されたりする方も多くなっています。

その理由は、放射線治療機器のめざましい進歩により、より安全に治療効果を上げられるようになっていることがあります。今までは、病巣部周辺の正常組織への影響が避けられませんでしたが、最近ではよりピンポイントに集中して照射することが可能になったことから、その影響を最小限に抑えられるためです。



放射線治療前（○が転移病巣）

治療後（転移病巣が消失）

画像は、乳がんの多発脳転移の患者さんに放射線治療を行った例ですが、照射後は嘘のように病巣がなくなっています。

このような高精度放射線治療は、強度変調放射線治療（ＩＭＲＴ）や定位照射などとして急速に普及が進みましたが、実施できる所は限られており、県北地区では2施設だけです。それでも、相馬福島道路などによってアクセスが良くなり、相双地区からの患者さんも増えてきています。

治療法の選択肢の1つとしてご検討頂ければと思います。